

加賀市医療提供体制調査検討委員会女性アドバイザー一部会（第2回）
会議録

日時：平成23年9月5日 午後3時30分開会

出席委員：赤澤部会長、池端委員、岡本委員、中野委員、西本委員、舛田委員、山崎委員

欠席委員：窪田委員、柴田委員、島貫委員

(50音順)

<会議の概要>

○議事

議題1 医療提供体制基本構想の進捗状況について

事務局説明 資料1、資料2

質疑応答

特になし

議題2 女性医療スタッフにとって働きやすい職場について

事務局説明 資料3、参考資料1

意見交換

1. 現状について

- ① これまでで不平不満を言っちゃダメだという意識があった。働きやすい病院の事例をみていると、女性にとって働きやすいといいながら、実は全ての人にとって働きやすい環境なのではないかと思う。男性看護師も入ってきている中で、女性という視点ではなくすべての職員にとって良い環境が求められると思う。子育てには、子どもを預けられる面と、休んで自分で子どもをみるという面の両方が充実・実感できる制度があれば良い。
- ② 子育て支援制度を利用したいという意見をすべて聞くこともできない。人間的な余白があればよいがそれを大きくすると経営的にも問題がある。まわりが支えきれず、限界がある。職員の年齢構成に応じた取り組みも必要ではないか。利用したい人は多く、まわりがどう支えるか、経営的にどうかなど、環境づくりは難しいと思うが現実的な内容にしていきたい。
- ③ 男性医師が支えている部分があり、そこが疲弊したらどうするかという議論もある。立場と職場、まわりのバランスを考えた人口ピラミッド、ヒエラルキーをしっかりと考え、現実的な選択肢をとらないといけないと思う。
- ④ 山中温泉医療センターの制度はすごくいい。子育てや介護のため、いったん退職してパート職員として戻ってくるケースがあるが、離れるのはすごくもったいない。多様な勤務形態

から働き方を選べることが実現されたら良いと思う。

- ⑤ 病児保育などの預けられる制度はいいが、預けられる制度があることで逆に休みをとりにくくなることもある。子どもが病気の時にはそばにいてあげたい気持ちもある。子どもにとっても病気のとくに知らない施設へ連れて来られるのは不安だろうという気もする。先ほどの意見のように、預けられることと休めることの両側面を充実することが大切。山中温泉医療センターでは、男性職員も短期的に夜勤免除の制度を利用した例もある。男性が堂々と育児に参加できるようになり、女性をサポートしていただけると女性にとっても心強いと思う。
- ⑥ 山中温泉医療センターの検査室は7人。自分がこの制度をとると他の職員の負担が大きくなると思って、とりにくい。時間休がないので、予防接種などで一時間だけでいいときでも半日休になり、それも周りの負担になるのかと思う。職場の人数が増えることで、改善されるかもしれない。
- ⑦ 特殊勤務形態は病棟に1人か2人の利用まで。それ以上は利用できていない。自分も使いたいのが両親がいるので我慢している。やはり人数の確保が必要。子育てだけでなく介護もすごく大変。家族に認知症の人がいると、家族に負担が降りかかってくる。介護でも特殊勤務の制度をとれるようになればよい。ある女性医師から、子育てのときに隔日勤務をしていて非常に助かったという意見も聞いた。
- ⑧ 介護のためにキャリアのある人が辞めてしまうことは、すごくもったいない。もう一度戻って来られる仕組み、バンクとして登録できるようなものができないか。介護・福祉施設の紹介など、何らかの支援があると働きやすいのではないかと考えている。

※ 山中温泉医療センターの特殊勤務形態は、基本的に看護師を対象とした制度であるが、その他の医療技術職技術職等で管理者が特に必要と認めた場合は、短時間勤務（6時間勤務）が可能となる。

2. 女性医療スタッフにとって働きやすい職場について

- ① 子育て世代は先の見通しがつくと思うが、家族の介護では見通しがつかない問題に直面することがある。20代は研修に行きたい、休みも欲しい世代。30代は子育て、40代後半から50代は家族の介護など。子育て世代と介護世代（更年期世代）をもう少し広く組み合わせられるのではないかとと思う。女性スタッフにとって働きやすい職場ということでは、当面、子育て世代がターゲットになるが、世代ごとの特徴を掴み、精神的・肉体的に整った状態で、他の世代に力を貸すことでできるように必要な支援をすること。“自分がこうなったときには、こういうふうに通じていける”と認識しやすい職場になるのではないか。
- ② 子育て世代はそれなりに知恵があり、声を出しやすい状況。むしろ、もう少し上の世代が悶々とした思いで働いているのを見ると残念。自分たちもそれを見ていると将来が開けてこない。いつまで夜勤を10回しないといけないのかな、段階的に減らせられないのか…とか。だけどそれを口に出せない。取り組みは、全世代に渡るもの、満遍なく意見を聞けるような体制であるとよい。
- ③ やはり職員数を確保すること。それには退職者を少なくする。すべての世代から声を上げ

ていける環境が大切。

- ④ 最終的にはマンパワーになる。資料にある2人で1人の人員とみなす等の工夫は良いと思う。家庭に問題がある人が自分で勤務体制を選べれば、抵抗無く、ここで働いていたいと思ってもらえるのではないか。医療センターでは、昔は夏季休暇を7～9月の間に3日間だったが、今は週休を加えた形で、一年のいつでもリフレッシュ休暇をとれる。職場の調整は必要だが、5日間から7日間の休みを取れる。7日間休みをとると本当にリフレッシュできる。2泊3日の旅行+家のことができる。職場への感謝や家のことも考える時間ができる。
- ⑤ 忙しくないときは有給使って帰って下さいと言ってくれるなど上司の配慮がある。尊敬できる上司で、技術的な指導もあり、定年延長も考慮してほしい。
- ⑥ 子育ても介護も男性が関わるようになってきた。勤務形態などを整理し、素晴らしい仕組みができると、男性の医師や看護師も働きやすい良い病院のなるのではないかと思う。
- ⑦ 金沢大学でも病院長に物申す女性チームができたとのこと。社会的な機運があるのかもしれない。
- ⑧ 女性スタッフが自分の体にも気を配り、健康で働いていけるように健診施設や、女性特有の疾患に対応できるような体制までできると、大切にされていると実感できる。
- ⑨ 金沢でエンゼルサポートというNPO法人の取り組みがある。医療従事者であるとマッサージやネイルのケアなどが割引になるようなものもある。
- ⑩ 病児・病後児保育には、十分なスペースが望ましい。女性は荷物が多いため十分な広さの休憩室やロッカー等の設備が望ましい。
- ⑪ 防音されたパーティションで区切れる多目的スペースがあると便利。
- ⑫ 病児・病後児保育では、具合が悪いときにだけ知らないところに来るのでは、子どもは不安が強いと思う。日常的な保育施設があればよい。別の部屋にいくだけで、スタッフもさほど変わらないし、安心。
- ⑬ 職員向けのジムの施設。更衣室からすぐにお風呂に入れるような動線にしてほしい。
- ⑭ ジム、お風呂、病後児保育があるとうれしい。
- ⑮ 病気のときだけでなく、普段から利用できる保育施設。「このゆびとーまれ」は、特に夏休みは子どもが多くて声が大きく、走りまわったり伸び伸びと過ごせるスペースが十分ではなく、安全面に配慮した子供の活動に応じた環境整備も必要と思う。地域の特定高齢者が、病院にいきがいをもってお手伝いに来てくれるスペース、システムができればいいのではないか。要介護者の早期発見や地域の人たちとの繋がりになるかもしれない。介護施設に通うことに抵抗がある人が通える場があればいい。

部会長 地域コミュニティの活性化につながる、日本に発信していけるなにかがこの場から生まれることを期待したい。

○事務連絡

- ・今回いただいた意見を加えた上で、9月14日の調査検討委員会で報告をさせていただきます。
- ・次回の開催は、10月末から11月初頭頃で調整したい。10月中旬の調査検討委員会で基本

構想の原案まとめ、約1か月のパブリックコメントを実施する予定。その間に部会を開催し、原案を説明したうけで、意見をいただきたい。

- ・会議録は、発言者の氏名を省略し、作成する。内容確認をお願いしたい。

○閉会

午後4時50閉会